

パリ協定から10年

安定した気候の地球を 未来世代に引き継ごう！

文：気象防災アドバイザー・気象予報士 佐々木勝裕（IEL会員）

2015年12月に「産業革命からの世界の気温上昇の目標を2℃未満とし、1.5℃未満に抑えるよう努力する」というパリ協定が採択されました。一方、世界の気温は2023年から突出した高温が3年続き、その途中の2025年3月には、世界気象機関（WMO）は産業革命前の基準値から1.55℃上昇したと発表しました。国際目標の1.5℃を初めて単年で超過したのです。

また、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、2021年の第6次評価報告書（AR6）で「累積CO₂排出量と世界平均気温上昇との間には、ほぼ線形（比例）の関係がある」と発表しました。産業革命以降2019年までに、地球の平均気温は1.07℃上がり、人類が排出したCO₂は累積で2兆3,900億トンを達しています。なお、気温上昇を1.5℃以内に抑えられる可能性を67%確保するためには、2020年以降の排出量を4,000億トンにとどめる必要があるとされています。ところが、世界のエネルギー起源CO₂排出量は、コロナ禍の2020年には400億トンをわずかに下回ったものの、それ以降は400億トンを超えて増加しており、合計約2,400億トンが既に排出された計算になります。

【図1】は2020年代から2100年に向けて人類がたどる道を示した図です。より安定した気候に向かう道は逸失していますが、不完全ながらも緑の地球に到達できるのか、灼熱の地球が待っているのか。その岐路に私たちは立っています。

CO₂濃度が増加し、地球温暖化が加速

人類が化石燃料の使用を増やし続けた結果、大気中のCO₂濃度はパリ協定採択時2015年の400ppmから大幅に増加し、2024年には424ppmとなっています。【図2】のとおり1960年代は1年あたり平均0.8ppmでしたが、2010年代には平均2.4ppmに顕著に増加し、2024年には観測史上最大の増加となりました。

2025年8月5日、群馬県伊勢崎市で国内最高気温41.8℃が観測されるなど、地球上では異常な高温が広く記録され、台風などによる大雨や洪水も世界各地で発生しています。2025年春、大船渡市では平成以降で国内最大の山林火災が発生し、アマゾン地域でも巨大な山林火災が続いています。火災により多量のCO₂が排出され、地球温暖化をさらに加速させる要因となっています。

安定した気候に支えられた環境・社会・経済を維持できるか否かの岐路に差し掛かっている今、未来とこの世代のことを考えるのが私たち現世代の役目です。CO₂の排出を大幅に削減し、気候を安定化させる緑の道（【図1】参照）をたどれるように取り組みましょう。こどもたちや孫たちに「あなたたちは何をして来たのか？」と問われた時、胸を張って答えられるように。CO₂削減の手だてはたくさんあります。

いちのせきから
ストップ温暖化

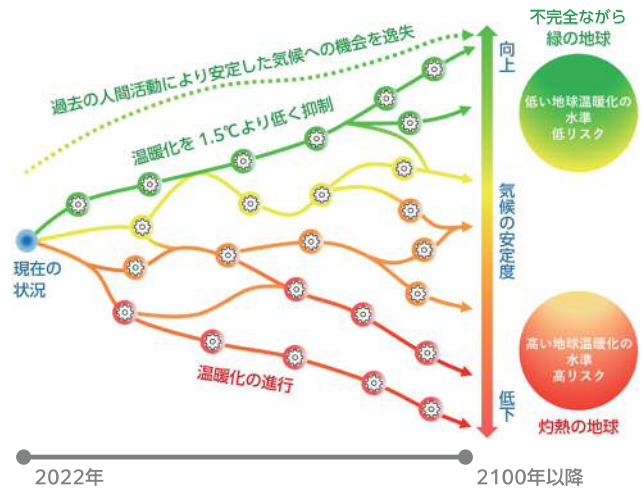
地球温暖化対策

広報 eco

第45号

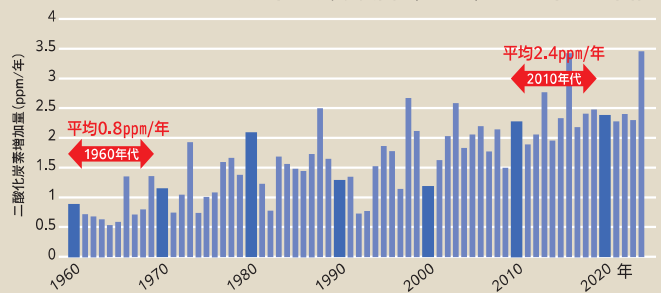
一関地球温暖化対策地域協議会(IEL) 令和8年2月25日発行

【図1】気候変動に関する政府間パネル第6次評価報告書（IPCC AR6）を元に作成



【図2】大気中CO₂の世界平均濃度の年増加量

出典：世界気象機関（WMO）温室効果ガス年報



2024年には大気中のCO₂濃度が
過去最大の増加！
地球温暖化が加速し、一関市では
2025年7月22日に観測史上最高
の38.3℃を記録しました！



随時会員募集中！

年会費個人 500円
企業団体など 5,000円

広報ecoのバックナンバーや
会員申し込みは
市ホームページを
確認してください



一関地球温暖化対策地域協議会事務局
(本庁生活環境課内) ☎ 21-8331